

■美濃焼 Mino

大別すると主なものは下記の4件。「瀬戸」は地名、「織部」と「志野」は人名に由来するが、それぞれの釉薬やデザインなどに特徴がある。

瀬戸黒 Seto-guro

織部 Oribe

黄瀬戸 Ki-zeto

志野 Shino

■唐津焼 Karatsu

特徴や名前の由来は様々。高麗茶碗の技法やスタイルが土台になったものも多い。

絵唐津 E Karatsu

朝鮮唐津 Chōsen Karatsu

三島唐津 Mishima Karatsu

粉引唐津 Kobiki-garatsu

奥高麗 Oku-gōrai

■高麗茶碗 Korai Teabowl

朝鮮半島で、主に朝鮮王朝時代に焼かれた茶碗の総称。当時、日本では朝鮮のことを高麗と呼んだため、高麗茶碗と呼ばれた。元来は朝鮮の人々が日用雑器として使っていたものを、茶人たちの審美眼によって見出され、抹茶碗に見立てられたもの。特徴や名前の由来は様々。

井戸 Ido (Ao-Ido [Blue Ido]; Ko-Ido [Little Ido]; Ko-kannyū [fine crackles in the glaze]; Idowaki [Borderline Ido])

三島 Mishima

粉引 Kobiki

刷毛目 Hakeme

伊羅保 Irabo

堅手 Katade

柿の蒂 Kakinoheta

雲鶴 Unkaku

御本 Gohon

■天目茶碗 Tenmoku Teabowl

建窯などで作られた鉄質黒釉の茶碗。特徴は、盞形（さんなり）あるいは天目形と呼ばれる形にある。器面に現れる文様よっての分類と建窯以外の窯名を冠して呼ぶ分類とがある。

曜変天目 Yōhen Tenmoku

油滴天目 Yuteki Tenmoku

灰被天目 Haikatsugi Tenmoku

禾目天目 Nogime Tenmoku

木葉天目 Konoha Tenmoku

○○（各窯名）天目 xxx Tenmoku

■楽茶碗（楽焼）Raku

轆轤を用いず手づくねによって成形され、低温度で焼かれた施釉陶器。茶碗が大部分で、皿、向付、水指等もあるが雑器はない。長次郎に始まり、2世常慶のとき豊臣秀吉から天下一の称号と〈楽〉の印を与えられた。ほかに本阿弥光悦、尾形乾山らの作陶もある。（広義では普通名詞的、狭義では固有名詞的と言える）

黒楽 Kuro Raku

赤楽 Aka Raku

Throwing marks

Throwing

Trimming

Workmanship

Coloration of the glaze

Scale and density of the glaze crackles and crawls

Trimming of the interior of the foot rim